

# 小地域福祉活動 事例集

～あなたの福祉がきつとある～



社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会



## はじめに

「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」ということは誰もが願うことです。

誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりには、住民が主体となって行動することが求められます。

本冊子では、浜松市内で既に活動している住民同士での支え合い・助け合い活動を事例として紹介しております。

これらの事例を通して、それぞれの地域における福祉活動の参考にしていただきたいと思い作成しました。

令和2年12月



# 目次

1.	小地域福祉活動とは	
2.	小地域福祉活動の内容	1
3.	小地域福祉活動の展開	2
4.	事例紹介	
	地域住民で支え合う家事援助	
① 中 区	家事援助事業「ふれあいサービス」	4
	誰もが自分らしさを大切にステキな色とりどりの虹のように	
② 中 区	レインボー 浜松若年性認知症家族会	5
	歩いて行ける居場所（心のよりどころ）	
③ 中 区	空き家・空きアパートを活用したサロン活動	6
	笑顔と会話もお届け	
④ 東 区	蒲デリシャス（配食サービス）	7
	農園から広がる地域の輪	
⑤ 東 区	漆島こども農園サロン	8
	気軽に誰もが集える憩いの場	
⑥ 西 区	西山カフェ	9
	社会福祉法人と連携した学習支援事業	
⑦ 南 区	寺子屋しんづ	10
	空き商店に息を吹き込む地域の交流スペース	
⑧ 北 区	みさとしゃべり場	11
	世代を超えて集い、交流できる居場所	
⑨ 浜北区	大人の居場所「まちカフェ」、子どもの居場所「まちキッズ」	12
	若者の街で始めたみんなのサロン	
⑩ 浜北区	そめじ会	13
	サロンを起点に地域へ広がる移動販売	
⑪ 天竜区	下阿多古買い物支援事業	14



# 1. 小地域福祉活動とは

小地域福祉活動とは、住民の日常的な暮らしにおいて、身近でなじみのある自治会や小学校区などの地域を範囲として、住民が主体となって行う組織的な福祉活動です。

その地域で生活を送るうえで、住民にとって共通の課題となっていることや、問題が起こることを防ぐために、住民が力を合わせて取り組むための組織をつくり、住民同士のつながりづくりや、日常的な助け合いの活動、活動の担い手づくりなどを地域の状況に応じて展開します。

しかし、すべて住民だけで行う、あるいは行わなければならないものではありません。住民の力だけでは解決が困難な問題については関係機関や専門職と共に考え、解決をめざします。



# 2. 小地域福祉活動の内容

小地域福祉活動は、地域で起こっている、あるいは起こりそうな「問題」について、住民自身が考えたり調べたりして、具体的に取り組んでいく「課題」としていくことから始まります。

そして、その「課題」に対してどのように取り組むのかを話し合い、合意形成をして課題に応じた具体的な活動が開始されます。したがって、活動は多様なプログラムが生まれますが、現在市内で実施されている活動は、「つながりづくり（孤立防止）」、「見守り（ニーズの発見）」、「生活支援（ゴミ出し、買い物、外出支援等のちょっとした生活の手助け）」の3つに大きく分類することができます。

また、これらの活動は、1つの活動で終わる（完結する）ものではなく、活動を通して気づいた課題に応じて、他の活動にも展開していきます。

## 3. 小地域福祉活動の展開

小地域福祉活動を行うためには、どんなことを行っていけばいいのか、一般的な展開方法を紹介します。

### 住んでいる地域の困りごとを知ろう

困りごとは、ひとりの問題じゃなく、みんなの問題です。まずは、地域にある困りごとを調査し把握しましょう。

### 地域のことを知り、分析しよう

改めて地域を調べ、分析することでこれまで見えなかったことが見えるようになります。

### 活動を始めるための準備をしよう

地域で活動している団体を調べたり、同じ想いの人や関係者とつながりましょう。

### 活動の継続のために計画をつくらう

計画を立てる上でのポイントや注意点を考え、仲間で共有しましょう。

### 実際に活動してみよう

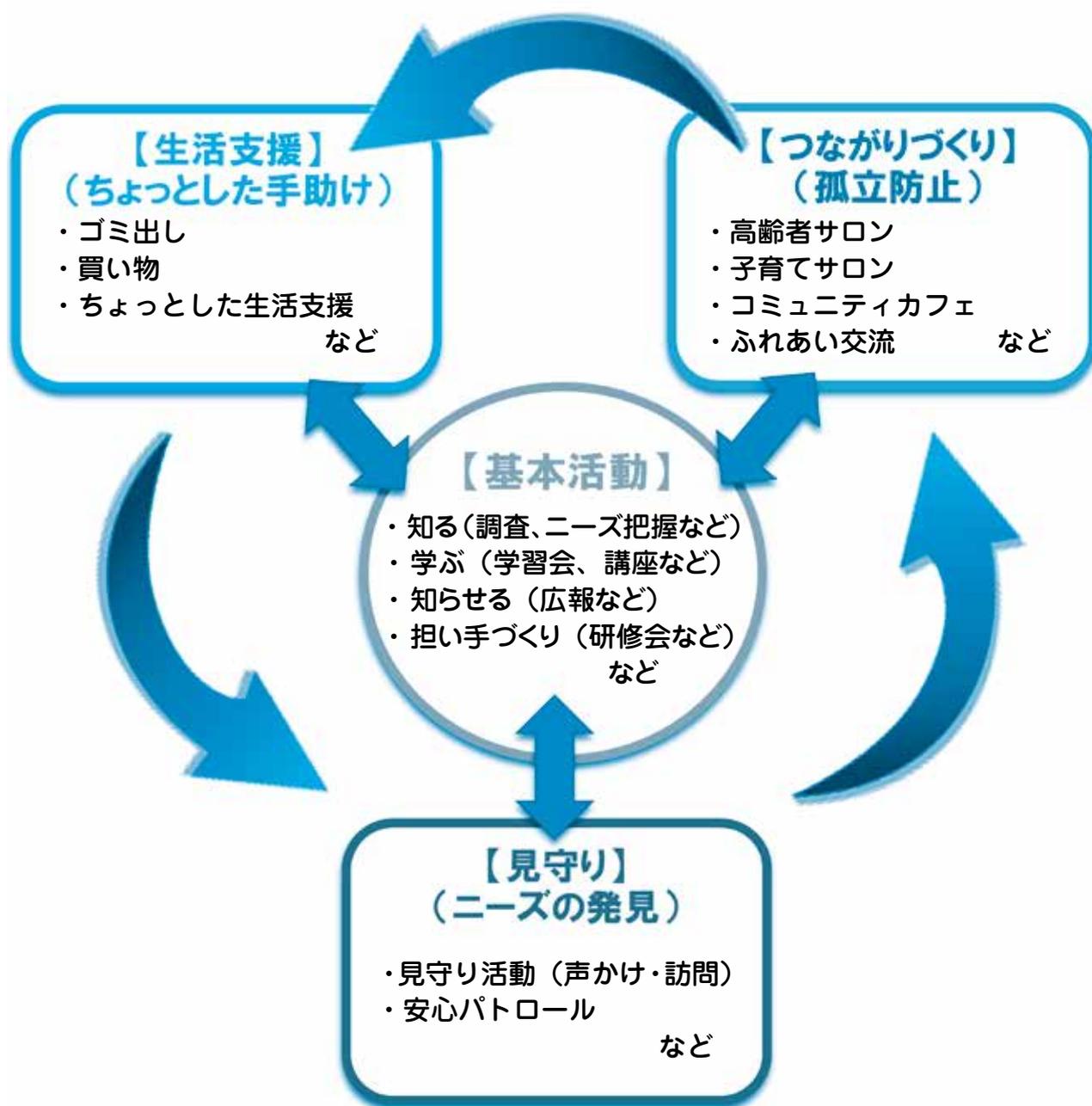
活動は無理せず、1人で抱え込まず楽しくみんなで行いましょう。実践するために必要なことを学びましょう。

### 活動をふりかえってみよう

計画と活動を見比べ、評価してみましょう。課題と対応策をみんなで話して次の活動に活かしましょう。



## 【小地域福祉活動 イメージ図】



活動は多様なプログラムが生まれますが、「つながりづくり(孤立防止)」、「見守り(ニーズの発見)」、「生活支援(ゴミ出し、買い物、外出支援などのちょっとした生活の手助け)」の3つに大きく分類することができます。

地域住民で支え合う家事援助

## 家事援助事業「ふれあいサービス」

北地区社会福祉協議会

作成者：久野 真衣

### 基本情報

- 活動場所…北地区内（中区）
- 活動頻度…10:00～17:00（土、日は除く）
- 利用料…最初の1時間まで500円。ただし1時間を超えた場合は30分増すごとに250円加算。
- 構成員…地区社会福祉協議会、地域住民

### キーワード

#つながり

#ふれあい

#会員制家事支援活動

#安心・安全な暮らしやすいまち

### ■活動をはじめたきっかけ

家事援助や身体介助を学べる講座を受け、地域住民の約30人が「ヘルパー3級」の資格を取得したものの、資格を活かす活動先がありませんでした。北地区は高齢化率が高く、家事に関する困りごとを抱えている人がいること（ニーズがあること）を知り、検討したことで受講者が協力員となり、平成16年に立ち上げました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

北地区社会福祉協議会ではどのように取り組んでいくのかの協議を重ね、3つの会員＜利用会員・協力会員・賛助会員＞制にすることにしました。

利用会員の確保のために、自治会やシニアクラブにも協力を得て、会合へ呼びかけを行い利用会員の募集をしました。特にシニアクラブの反響が大きく、家事援助活動の開始時に50人の利用会員を集めることができました。賛助会員では資金の援助をしていただくため、地域住民や法人などにも声掛け・依頼を行い協力を得られるようにしました。

### ■活動内容

掃除や買い物代行、通院等の送迎付き添い、ごみ出しや草取り、その他家事に関すること。

＜その他＞

利用する場合には、事前に「ふれあい切符」の購入が必要。

＜会員制＞

サービスを利用する「利用会員」、サービスを提供する「協力会員」、この事業に賛同し資金援助をする「賛助会員」の三種類の会員制にしています。現在は会員総数が240人まで増えました。

サービスの調整役として4町ごとに1～2人のコーディネーターを配置。

年4回「ふれあいサービスだより」を発行して利用会員に手渡ししており、直接会ってお話することで地域住民間のつながりづくり活動にもなっています。

### ■実績・効果

サービスを提供する中で、普段の生活では見えないこと（様々な福祉情報）を知ることができ、利用者の方と会話を重ねる中でつながりが強くなり、頼りにしてくれる人が増えたりすることで、活動に対してのやりがいが生まれています。

また、地域の人と親しくなることができ、生活の困りごとをキャッチすること＜見守り＞にもつながっています。

### ■今後の展開

一番の課題は、家事援助を行う協力会員の高齢化です。家事援助では体力を使うことも多く、若い人にも担い手になってもらいたいと思っています。

また、サービスを利用されている方の大半は高齢者ですが、もっと若い世代の方にも利用していただきたいと考えています。特に共働きなどで家事に手が回らない若い方や育児に手助けが欲しい家庭にもぜひ利用してほしいため、今後は「子育て世代」にも広げていきたいです。



# 活動事例 ②

誰もが自分らしさを大切にステキな色とりどりの虹のように

## 浜松 若年性認知症家族会

### レインボー

作成者：玉澤 彰人

#### 基本情報

- **活動場所**…城北の家 1F 喫茶くすの木 (中区)
- **活動頻度**…月1回 木曜日 10:00~12:00
- **利用料**…茶話会の参加費100円
- **構成員**…若年性認知症と診断された方またはそのご家族 MCI(軽度認知障害)と診断を受けられた方

#### キーワード

#茶話会

#家族会

#若年性認知症

#交流

#### ■活動をはじめたきっかけ

代表者の母親が若年性認知症になり、家族としてショックを受けとても大きな不安を抱えていました。落ち込み悩みもしましたが、「同じような境遇の人が私の他にもいるのではないかな。お互いの状況を伝えあうことで、少しでも勇気や安らぎを与えられるのではないかな。本人も家族もつらい状況を受け入れてもらえる仲間が必要なのではないかな」と考え、浜松市社会福祉協議会に相談をしました。その後コミュニティソーシャルワーカー(以下「CSW」という。)の協力も得て家族会を立ち上げ、活動することになりました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

浜松市社会福祉協議会に家族会立ち上げについて相談したことで地域包括支援センター(以下「包括」という。)や行政に家族会を立ち上げたい意思・意向を説明する機会を持ちました。その後、浜松市社会福祉協議会とで家族会立ち上げに向けて何度か話し合いを行い「できることから始めてみよう」ということで茶話会を企画し開催することになりました。

ただ、茶話会を開催するためには会場が必要ですが、会場を借りるための運営費がないという課題が出ました。そこで、CSWに地域にある社会福祉法人(天竜厚生会 城北の家)の地域交流スペースの利用に向けて調整してもらったことで、無料で施設の利用ができるようになりました。

周知に関しては、包括や行政の協力を得て、病院や専門機関(ケアマネージャー)に周知のためのチラシを配布することで、会について知ってもらうことができました。

茶話会も定期開催することにより少しずつ参加する人が多くなってきています。

#### ■活動内容

茶話会は家族同士の交流がメインです。専門職もオブザーバーで参加してくれるので、相談できる場となっています。

茶話会だけでなく、ミニコンサートやバーベキューなどのイベントも企画して楽しんでいます。

また、若年性認知症について知ってほしい、誰でも気軽に参加できる茶話会にしたいと思い、イオン市野のスターバックスで茶話会を開催する取り組みも行っています。

若年性認知症についてもっとみんなに知ってもらい、理解者が増やしたいという想いで活動を行っています。

#### ■実績・効果

同じ立場の人と出会え、気持ちの共有ができ仲間もできたことが良かったです。

普段介護している家族は“当事者のために何かやらなくては”と頑張り過ぎてしまうので、この会ではまずは家族自身が楽しむことを大切にしています。

茶話会に参加している方からは「誰にも言えない悩みがあった。会に参加することで悩みを話すことができ良かった」という意見もいただいています。

#### ■今後の展開

レインボーは大きな団体ではないですが、それがレインボーの良さです。

気兼ねなくフラットな気持ちで、元気が出るような、心のよりどころになるような場所にしたいと思っています。

普通ではないことを普通にしたいです。

全国の他の団体とも交流ができればと思っています。



# 活動事例 ③

歩いて行ける居場所（心のよりどころ）

## 空き家・空きアパートを活用したサロン活動（①福江サロン・②石田サロン）

富塚地区社会福祉協議会

作成者：伊藤 優太

### 基本情報

- **活動場所**…富塚地区内（中区）
- **活動頻度**…①福江サロン 毎月第1水曜日／②石田サロン 毎月第1・3火曜日、第2・4土曜日
- **利用料**…100円（お茶代として）
- **構成員**…地区社会福祉協議会、地域住民

### キーワード

#空き家

#空きアパート

#歩いて行ける

#サロン活動

### ■活動をはじめたきっかけ

富塚地区社会福祉協議会では自宅から歩いて行ける範囲で居場所（小地域サロン）を作ろうと推進しています。

①福江サロン（空き家）…元地区社会福祉協議会会長がサロンに参加をしていましたが、会場まで坂が多いなど、通うのがとても大変でした。そこで、自宅を会場として提供したいと申し出があり、自宅を利用したサロン活動を始めることになりました。元会長が亡くなられた後も「自宅を開放してサロン活動を継続してほしい」と遺言を残されたこと、元会長の息子さんのご理解・ご協力を得られることになったことで空き家を利用したサロン開催につながりました。

②石田サロン（空きアパート）…アパートの大家をしている地区社会福祉協議会推進委員が、自分が所有しているアパートの空き部屋をサロン活動に提供をしたいと申し出があり、そこから空き部屋を利用したサロン活動が始まりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

サロンの周知はチラシをポスティングしたり、民生委員・児童委員から声掛けをしてもらっています。

石田サロンでは参加者を多く集めるため、開催日を月4回以上とし、その内2回以上は健康麻雀を開催することにしました。結果として、多くの男性が参加してくれています。

### ■活動内容

地域のボランティアグループ「JOY青空」の協力を得て、活動し、ロコトレやゲームなどレクリエーションを行っています。

### ■実績・効果

空き家・空きアパートを活用することで、自宅から歩いて行ける距離でサロン活動を開催することができ、参加しやすい状況を作ることができました。また、地域に新しい居場所が増えたことで、新たな人と人とのつながりを作ることができました。

### ■今後の展開

できる限りこの場所を使いながら長く続けていきたいです。  
地域の居場所としてのサロン活動を継続していきたいです。

### その他の情報！

- ①福江サロン：賃借料は無料で提供。（持ち主の息子の善意。）
- ②石田サロン：賃借料は無料。（アパートの持ち主の善意）



笑顔と会話もお届け

## 蒲デリシャス（配食サービス）

蒲地区社会福祉協議会

作成者：柴山 悠介

### 基本情報

- 活動場所…蒲地区内（東区）
- 活動頻度…月2回 第1・3木曜日
- 利用料…1食380円
- 構成員…44人

### キーワード

#配食

#見守り

#つながり

#高齢者

### ■活動をはじめたきっかけ

蒲地区社会福祉協議会の立ち上げ時より行われている事業の一つです。蒲地区はひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦も増えてきている状況であり、この事業の必要性はまだあります。

### ■工夫・活動開始までの流れ

特に衛生面に気を付けています。配食時に使用のお弁当箱は煮沸消毒とアルコール消毒を行い、食中毒対策を念入りに行っていました。コロナ禍において、一度は活動を休止しましたが、再開にあたり、今まで以上に衛生面には気を使い、お弁当箱については当面使い捨てタイプを使う予定です。

お弁当の献立は、高齢者ふれあいサービスのレシピを参考にしながら決めていきます。毎月、ボランティアコーナー（ネットワーク蒲）の当番の時に話し合いをして決めていきます。決めたメニューを基に前日に買い物に行きますが、材料の値段と予算を考えアレンジをすることも多く、主婦の知恵と経験を活かして買い物・調理をしています。

### ■活動内容

原則として、利用できるのは調理が難しくなってきたひとり暮らし高齢者または高齢者夫婦を基本として配食を行っています。

### ■実績・効果

調理に携わっている人達は、ベテランの主婦であり、全て手作りの家庭的な味付けとなっています。届けた人たちからは、「美味しかった」、「回数を増やしてもらえないか」という嬉しい声もいただけています。手渡しで渡すことにより、必ず会話をして状況確認も行っているのも特徴の一つです。業者の配食と比べ、まずは会話を楽しむ点が地域で行う活動の意義の一つだとも考えています。

またお弁当箱も食べ終わった後に、洗ってもらうようお願いしているため、本人の生活状況を知る機会にもつながっています。作成したお弁当を配達後にみんなで食べ、味付けや盛り付けなどの見直しもしています。その際に、各家庭でのやり方が話題になることもあり、互いが持つ「豆知識」で話が盛り上がり、ボランティアを通して地域のつながりの場の一つにもなっています。

夏休み期間には、地元の中学生も参加してくれます。一人暮らしの人たちは食事を疎かにしてしまうこともあるので、お弁当を渡すだけでなく、活動を通して「食の大切さ」を伝えていけるように活動を頑張っていきたいです。

### ■今後の展開

活動を始めて27年を迎えました。今までも「無事故」で来ており、今後もこのまま「無事故」で継続していきたいと思っております。これから利用したい人も増えると思いますが、定年退職の年齢引き上げに伴い、支え手となるボランティアの活動者をどう確保していくかの、利用者と支え手のバランスが取れるかが、今後の課題でないかと考えています。

活動へ参加してくれている人の中には、地域でのつながりや何か協力できることはないかを考えて参加してくれている人もいるため、月に2回の活動・集まりを通して、みんなが笑顔になれる活動・場作りを目指して続けていきたいです。



### その他の情報！

活動の歴史の中に行政より委託事業として配食を行っていた時代もあり、時代に併せて活動のやり方を検討してきました。活動を継続できているのは、利用者からの嬉しい意見があり、活動を通して生まれる笑顔もあり、ボランティア、民生委員・児童委員を中心とした活動への協力体制があって続けてこられた背景があったからです。

農園から広がる地域の輪

## 漆島こども農園サロン

積志地区社会福祉協議会

作成者：富田 真理恵

### 基本情報

- 活動場所…漆島こども農園（東区）
- 活動頻度…毎週日曜日 9:00～11:00
- 利用料…無料
- 構成員…約17人

### キーワード

#サロン

#ふれあい

#生きがい

#世代間交流

### ■活動をはじめたきっかけ

東日本大震災の際に、自治会で義援金を集めたのがきっかけでした。復興には長い年月が必要であり、自治会としても継続的に義援金を送りたいと考え、住民で作物を作り、販売し、一部を義援金とする仕組みを考えました。

この地域は、若い世帯も多いですが、少しずつ高齢化も進んでいます。様々な世代が交流し、それぞれが活躍できる場を作りたいという思いもあり、活動が始まりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

地域では、自家農園をしていた方が高齢になり農園をやめたことで、耕作放棄地が増えました。

そこで、農園を始めるにあたり、自治会回覧で、畑を貸してくれる人や作物づくりを教えてくれる人など、住民一人ひとりが協力できることを書いてもらう参加表を配布しました。そのような中で、畑を貸してくれる人が見つかり、また、中心メンバーを構成するためにシニアクラブに声掛けもし、約20人の有志が集まりました。

自治会回覧をしたことで、活動を始めるとの周知ができ、住民それぞれが農園に協力し、気にかけてくれる体制ができたのではないかと思います。今も作物を販売すれば多くの方が購入してくれ、苗の購入先を紹介してくれる人もいます。

### ■活動内容

作物の世話や収穫を行います。時間が決まっているので、有志メンバーの負担も少なく、子どもから高齢者まで様々な住民が訪れます。小屋とビニールハウスを建てて、収穫した作物をその場で調理し食べ、交流を深めることもあります。

自治会が夏に実施する夏祭りではスイカ割り用のスイカを提供したり、シニアクラブの食事会に材料を提供することもあります。秋に行う「いもの収穫」は大々的に自治会内にお知らせし、住民みんなで収穫を楽しみます。

苗や肥料などを購入する費用はかかりますが、作物販売と地区社会福祉協議会からの助成金などで賄われるので、参加費はありません。

### ■実績・効果

主なメンバーは80歳を超える人がほとんどですが、元気はつらつとしています。この活動は定期的に来るだけでなく、メンバーがそれぞれに役割をもっていることが、いきいきとした活動につながっていると感じます。自分たちが作った野菜が、地域住民に喜んで買ってもらえたり、交流の役に立つことを実感し、「笑顔」をみることがメンバーの生きがいにもつながると思います。あるメンバーは、サロンでの活動をきっかけに、自分の畑で、ゆり園を作り始めた方もおり、みんながお互いに思いやる活動が広がっています。

### ■今後の展開

主なメンバーの平均年齢がどんどん上がっています。活動を継続させていくために、新しいメンバー募集に力をいれていかなくてはなりません。そのためにも、より多くの地域住民がこの活動にできることをできる範囲で関わる機会を増やしていくなくてはなりません。



気軽に誰もが集える憩いの場

## 西山カフェ

神久呂地区社会福祉協議会

作成者：赤井 晴史

### 基本情報

- 活動場所…西山会館（西区）
- 活動頻度…月1回 第4水曜 13:30～15:30
- 利用料…100円（飲み物とお菓子代として）
- 構成員…スタッフ10人

### キーワード

#居場所

#見守り

#地域カフェ

#世代間交流

### ■活動をはじめたきっかけ

地域の高齢化率も高くなり、ひとり暮らしの方も増加する中、閉じこもりがちで外出する機会が少なくなり、地域の中で孤立する高齢者が増えてきているという印象で、何とか地域の人達が交流できるような居場所の必要性を感じていました。高齢者の外出機会を増やして孤立解消を図り、特定の活動に捉われず自由に参加出来るようカフェスタイルでの活動を始めることになりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

カフェを始めるにあたって西山町自治会へ相談したところ、自治会も高齢者の居場所づくりを検討中であったため、自治会と協働してカフェの立ち上げを進めました。その際は、既に行われていた他の地域でのカフェ活動の形態を参考に準備をし、平成29年10月に活動を始めました。

### ■活動内容

基本的には1日のプログラムを決めず、誰でも気軽に立ち寄れるお茶飲み場を目指しているので、お茶とお茶菓子で楽しくおしゃべりしています（飲み物とお茶菓子でワンコイン100円）。時には、健康体操やレクリエーションを行うこともあります。来て下さる方はみんなのおしゃべりを楽しみにしています。

また、長期休暇時には小中学生がボランティアとして参加し、地域の高齢者と顔の見える関係づくりに取り組んでいます。当初は高齢者を対象としていましたが、現在では障がいのある方や子どもなど、地域に暮らす方々を対象にオープンしています。

このカフェは自治会役員や民生委員・児童委員も参加しており、見守りの場にもなっています。

### ■実績・効果

カフェ参加者同士でつながりができたことで、互いに見守り、気にかけてくれる関係づくりにつながっています。また、「カフェ」という言葉が地域の人に浸透し、新規の人が参加しやすくなっています。台風の際には「台風カフェ」という避難場所として防災の役割も担っています。

### ■今後の展開

カフェ活動が無くならないよう長く続けていきたいです。新しい生活様式を守ってカフェ活動を続けていけるかが今後の課題です。スタッフは場所の提供をするのみで、誰もが気軽に来れて参加者が好きに過ごせる憩いの場所となるようにしたいです。



## 社会福祉法人と連携した学習支援事業

# 寺子屋しんづ

社会福祉法人ほなみ会・新津地区民生委員児童委員協議会

作成者：高桑 映子

### 基本情報

- 活動場所…デイサービスセンター南風（南区）
- 活動頻度…週1回 土曜日 13：30～15：30
- 利用料…無料
- 構成員…法人職員、民生委員・児童委員

### キーワード

#子どもの居場所

#三世代交流

#学習支援

#社会福祉法人と民生委員・児童委員

### ■活動をはじめたきっかけ

平成27・28年度と全国民生委員互助共助事業助成金を活用し、新津地区民生委員児童委員協議会では貧困、ひとり親世帯等の子どもの支援を行いたいという希望を事業化するため、地域での子どもの居場所づくり、学習の場、地域の大人（民生委員・児童委員）との交流の場として「寺子屋しんづ」を立ち上げました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

地域の小学校、スクールソーシャルワーカー（SSW）、浜松市社会福祉協議会と協議を重ね、活動に至りました。勉強だけではなく一緒に昼食やおやつを作り、子どもと、支援を行う民生委員・児童委員とが地域のおじさんおばさんとして、ふれあい、交流できる内容にするなどの工夫をしました。

また、大学生に先生ボランティアとして協力してもらうなど、大学生の持っている力を活用しつつ、お兄さん・お姉さん世代との交流にも広げました。

### ■活動内容

平成27年度から30年度までの8月までは夏休みなどの長期休暇時に実施していました。平成30年度9月からは毎月第4土曜日になり、令和2年度からは毎週土曜日に変更しました。令和2年度からの2か年は浜松市の子育て支援事業を社会福祉法人ほなみ会が受託し、活動しています。会場は協働センターから、法人内のデイサービスセンター南風（同敷地内）へ変わりました。子どもたちの送迎などもほなみ会の協力を得て実施しています。

### ■実績・効果

地元の学校とのかかわりが強くなり、児童の支援・見守りなどについて学校との協力体制ができてきました。また、先生ボランティアには地元の県立浜松南高校の協力がいただけるようになり、多い時で6人の生徒の協力があり、高校との連携の輪が広がりました。

自治会連合会から助成金をいただいたつながりから、自治会長からも時折声掛けがあり、寺子屋しんづが地域に浸透してきているのが実感できています。

### ■今後の展開

居場所としての要素も主に考えていきたいため、不登校の子どもたちに参加してもらいたい思いがあります。主催する側としては「やらなきゃいけない」という思いにかられてしまいがちですが、目線を子どもたちや保護者に向け「声」を聴き取っていき、これからの活動に活かしたいと考えています。

## その他の情報！

寺子屋しんづの開催場所となっている社会福祉法人ほなみ会では、法人の地域貢献として、「子どもの支援を行いたい」という強い思いがあり、それが新津地区民生委員・児童委員の思いと重なったことで協力体制が整いました。また、法人では令和2年度より「地域福祉推進室」という新たな部署を設立し、地域との連携事業に力を入れており、その一つとして浜松市子育て支援事業の寺子屋しんづは、送迎に法人の車両の貸し出しやチラシや看板の作成、当日の先生ボランティアを施設職員が担うなどの活動をしています。



空き商店に息を吹き込む地域の交流スペース

## みさとしゃべり場

### みさとしゃべり場応援隊

作成者：三室 勇樹

#### 基本情報

- **活動場所**… 縣商店（閉店した店舗）（北区）
- **活動頻度**… 平日
- **構成員**… 自治会役員、民生委員・児童委員、自治会有志

#### キーワード

#住民交流

#地域活性化

#地域全体で運営

#誰もが気軽に立ち寄れる場所

#### ■活動をはじめたきっかけ

引佐地区社会福祉協議会で実施した地域診断の地域福祉アンケート結果や、これを基礎資料にして行った住民懇談会で、『いつでも誰でもふらっと自由に立ち寄ることのできる場所』が欲しいとの要望や、子育て中の親からは、小中学生が帰りのバスを待つ場所が欲しいなど、ふれあいやつどいの場を求める声が多数寄せられました。当該地区の地区社会福祉協議会役員が、漠然と感じていたことを地域の方々も同じように感じている事が分かり、活動の実施に向けて動き出しました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

引佐地区社会福祉協議会や浜松市社会福祉協議会北地区センターから自治会長に対し、アンケート結果や住民懇談会から地域住民が気軽に立ち寄ることのできる場所が欲しいとの要望が出ている事を伝え、開催について提案しました。自治会では、地域の住民に参加してもらえるように応援隊を結成し、場のあり方などを決めていきました。会場は、閉店した120年ほど続いた故郷のシンボリックな商店があり、住民の交流拠点として活用したい旨を店主に伝えたとこ借用することができました。オープン初日には、活動資金捻出の意味もありバザーなどのイベントを開催して、オープンしたことを地区全体に周知しました。

#### ■活動内容

誰でも立ち寄ることのできるスペースです。小学生の作品や昔の思い出の写真の展示、地域のイベントなど日常の様々な情報発信を担っています。

ヤッホーみさと：掲示板があり、地域の気になる事や困りごとなどを書き込むことができ、後日必ず回答(返事)が掲示されています。(やまびこのように必ず返事があるため、ヤッホーみさとと命名されました。)

※日常的な場所の管理、来場された方の対応は、店主とご家族の協力をいただいています。

#### ■実績・効果

児童を迎えに来た親の交流や、展示をしてある作品を見に来た方、迎えを待つ児童など、老若男女問わずこの地域住民のコミュニケーションの場になっています。自治会が大きいかかわっているため、行政への働きかけでこの場所の前をいなさみどりバス(デマンドバス)の停留所としていただき、人が集いやすくなるような体制に整備されています。

※令和元年度の延べ来場者数は3,137人

#### ■今後の展開

高齢化率も年々高くなり、世帯数や1世帯当たりの人口も減少してきている中山間地域において、住民の拠点となるような活動を今後も継続していきます。世代を問わず住民の交流の場となる事や、地域の中の案内所になるなど、住民のアイデアを生かして、地域全体で運営する交流スペースとなるように活動を行っていききたいと思います。



# 活動事例 ⑨

世代を超えて集い、交流できる居場所

## 大人の居場所「まちカフェ」、子どもの居場所「まちキッズ」

鹿玉地区社会福祉協議会

作成者：赤堀 達雄

### 基本情報

- **活動場所**…永楽屋（浜北区）
- **活動頻度**…日曜日を除く毎日 10:00～18:00
- **利用料**…参加費「まちカフェ」は、飲み物代100円。
- **構成員**…“まち”居場所サポーターズクラブ、鹿玉地区生活支援推進委員会

### キーワード

#居場所

#子ども

#カフェ

#世代間交流

### ■活動をはじめたきっかけ

平成29年度に、鹿玉地区における福祉活動の充実を図るためにワーキンググループ「あらたまネット」が発足。1年かけて地域課題と新たな支援のあり方を取りまとめました。提言（3か年計画）の2年目の柱が「世代を超えて集い、交流できる居場所」を地域につくることでした。

### ■工夫・活動開始までの流れ

居場所づくりの検討を開始したほぼ同時期に、子どもたちの交流を目的として駄菓子屋・永楽屋が開店。オーナーと地域とで話し合いを重ねた結果、両者が連携して、令和元年8月1日に店舗型居場所をスタートすることになりました。運営は、地元自治会を中心としたサポーターズクラブが担当しています。

### ■活動内容

店内には本やコミックが置かれ、自由に見ることができます。オセロ、碁、将棋、トランプなども置いてあり、子どもたちは思い思いに楽しみ、勉強している子もいます。大人（主に高齢者）は、コーヒーを飲みながら談笑しています。大人と子どもが同じ場所で違和感なく過ごすことができている。また、「まちカフェ」として、奇数月に定期的なコンサート（小さなライブ）、偶数月の第3木曜日には、認知症カフェを行っています。

### ■今後の展開

「つながり」の維持・継続が課題です。大人向けには、少人数での折り紙、習字、将棋の教室などの利用を取り入れていきたいと考えています。子ども向けには、ボードゲームなどをさらに充実してデジタルにはない楽しさを提供していく予定です。小さなライブや認知症カフェ、居場所のいろいろな機能の活用を図りながら、交流の機会を増やしていきたいと思います。



### その他の情報！

創業明治5年の歴史ある老舗呉服店を地域に貢献するコミュニティスペースにリフォームしました。店構え、店内ともに、昭和レトロの雰囲気。高齢者にはなつかしく、子どもたちには、落ち着ける場所になっています。店内は、駄菓子とおもちゃケースのスペース、テーブルと椅子が置かれているスペース、6畳の板の間があります。棚には、本やレコードが並べられています。コンサートや認知症カフェの時には、6畳間が舞台になり、テーブル席が客席になります。40人ほどが入ることができ、イベントの時は、いつも満席となっています。



若者の街で始めたみんなのサロン

## そめじ会

浜名地区社会福祉協議会

作成者：塚田 直緒子

### 基本情報

- **活動場所**…染地台3丁目公民館（浜北区） ● **活動頻度**…原則 月1回 第2日曜日 13:30～15:30
- **利用料**…100円（ただし、子どもと初回参加者は無料）
- **構成員**…「そめじ会」会員（スタッフ+メンバー）約60人

### キーワード

#サロン

#子どもから大人まで

#オフ会

#世代間交流

### ■活動をはじめたきっかけ

染地台は、令和2年4月1日時点で人口約7,200人、平均年齢32.5歳、高齢者約520人（高齢化率7.2%）、18歳以下が約2,600人（36%）と圧倒的に「若者の街」です。そのため染地台におけるサロン活動などは全くなく、高齢者からの支援要請や子育て世代の交流の場が必要との声が聞こえるようになりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

主に自治会役員と民生委員・児童委員及び若干名の有志の計9人により、約5回の準備会議を経て、内容及び進め方の検討を行いました。また、浜松市社会福祉協議会や地域包括支援センターなどのアドバイスや協力を得て、平成30年5月27日に第1回の「そめじ会」を開催しスタートを切ることができました。

### ■活動内容

毎回約30人を超える方々が参加者しています。「さわやか健康体操」、「レクリエーション」、「ロコモ体操」などを行い、「だべりんぐタイム」としてお茶と茶菓子で参加者同士の親睦を深める時間を設けています。特に、子どもから高齢者まで誰もが楽しめる内容を心掛けています。

### ■実績・効果

「もっと開催頻度を増やしてほしい。」などの声があり、月1回の定例会以外に、参加者のニーズを聞きながら様々な内容を計画し、年3～4回程度の頻度で「オフ会」と称し実施するようにしています。

### ■今後の展開

参加者自身で協力し合い、「そめじ会」を運営していくことを考えたいと思います。その上で、各町内の公民館でも開催でき、頻度も週1回程度開催できるようにしていきたいです。また、サポートスタッフとして、中高生をボランティア福祉活動として参加してもらい、染地台の老若男女が安心して楽しく生活できる相互扶助の街「染地台」にしていきたいと考えています。

また今後は、「オフ会」として、アウトドアがメインの活動を企画してみるつもりです。



サロンを起点に地域へ広がる移動販売

## 買い物支援事業

下阿多古地区社会福祉協議会

作成者：船越 新平

### 基本情報

- 活動場所…下阿多古地区内、各サロンの実施場所（天竜区）
- 活動頻度…5会場にてそれぞれ月1～2回程度
- 利用料…無料 ●構成員…地区社会福祉協議会、移動販売業者

### キーワード

#サロン

#買い物支援

#地区社会福祉協議会

#移動販売

### 活動をはじめたきっかけ

下阿多古地区は、天竜区の南西部に位置し、人口2,657人、高齢化率約39%（令和2年4月現在）の、阿多古川下流域にある自然が豊かな地域です。しかし、地区の中には何年も前から商店が無く、地域懇談会では、「買い物ができる場所が近くになくて不便」、「今は車があるので大丈夫だが、今後免許返納したら買い物できるところが無くなり不安」といった意見が出ました。そのため、生活に欠かせない「買い物」について取り組んでいく必要があると考え、「買い物支援事業」の実施に至りました。

### 工夫・活動開始までの流れ

サロン会場には人が集まっているため、たくさんの人が移動販売を利用してくれると考え調整しました。また、サロンの参加者は主婦の方が多いため、そこからの口コミなども期待しました。

活動開始までの流れ

- ①下阿多古地区内全世帯を対象に「買い物に関する地域アンケート」を実施し、事業の必要性を確認する。
- ②他地区で行っている移動販売を視察し、移動販売についての見識を深める。
- ③地域で実施されているサロンにて、移動販売についての説明を行う。
- ④小地域で行われている懇談会などに出向き、移動販売の説明や周知を行う。

### 活動内容

地域で活動しているサロンの終了時間に合わせて、「移動販売あいあい」が会場に来てお店を開きます。サロン参加者が、仲間と一緒に商品を見ながら「今日の晩ごはんは何にしようか。」「この前、鮭の切り身が、とてもおいしかった。」など、しゃべりながら楽しんでいきます。

### 実績・効果

利用された方より「商品を自分の目で見て買うことができとてもうれしい。」などの声を頂きました。また、買い物支援事業を通じて、地区社会福祉協議会の活動やサロンについて地域住民の方にも広く知ってもらえることができました。

### 今後の展開

現在は、サロン活動日にあわせて実施をしているので、各地域月1～2回程度の実施となっています。しかし、将来、免許返納などが進むと、毎日の買い物に困ってしまうことが考えられます。そのため、今後は自治会などとも協力しながら、「組」などの小地域単位で業者と調整ができるようになればと考えています。



## おわりに

「つながりづくり」「見守り」「生活支援」という代表的な小地域福祉活動を11の事例で紹介させていただきました。一人の生活者である私たちが、ある人の困りごとに気づき、「放っておけない」という気持ちになった時、その時が「地域ニーズ(困りごと)の発見」であり、その問題意識の共有に向けて住民同士が話し合う場があることで、地域の総意として解決に向けて動き出し、さらにはその体験を通して、地域全体の気づきや解決力がさらに高まるのだと思います。このような小地域福祉活動は、地域近隣を広く見渡し、また、少し気になる人を何気なく気にかける風土があるからこそ可能になるのだと思います。また、具体的な活動を拡げることによって、このような風土がさらに醸成されることでしょう。

「住民主体」の実現は容易いことではありません。昨今は、公助の必要を棚上げにしたまま、地域住民活動による互助・共助が強調されており、今の時代だからこそその「住民主体」の実現の難しさがあるのです。「政策に求められて仕方なく」ではない「言われなくとも、必要だから行うのだ」と言い切ることのできる「住民主体」の実現をめざして、浜松市社会福祉協議会はともに活動してまいります。

浜松市社会福祉協議会  
コミュニティソーシャルワーカー配置事業アドバイザー  
聖隷クリストファー大学  
社会福祉学部社会福祉学科 教授 川向 雅弘

# 相談受付機関（浜松市社会福祉協議会）

浜松市にはコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が配置されています。  
地域の福祉に関することは、CSWと一緒に考えますので、ご相談ください。

## 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会

### 中区・南区

浜松地区センター 中区成子町140-8 TEL 053-453-0553

### 東区

東区事務所 東区流通元町20-3 TEL 053-422-3737

### 西区

西地区センター 西区舞阪町舞阪2701-9 TEL 053-596-1730

### 北区

北地区センター 北区細江町気賀4581 TEL 053-527-2941

引佐事務所 北区引佐町井伊谷616-5 TEL 053-542-3486

三ヶ日事務所 北区三ヶ日町宇志803 TEL 053-524-1514

### 浜北区

浜北地区センター 浜北区小林1272-1 TEL 053-586-4499

### 天竜区

天竜地区センター 天竜区二俣町二俣530-18 TEL 053-926-0322

春野事務所 天竜区春野町宮川1330 TEL 053-989-1261

佐久間事務所 天竜区佐久間町中部18-11 TEL 053-965-0294

水窪事務所 天竜区水窪町奥領家2980-1 TEL 053-982-0046

龍山事務所 天竜区龍山町戸倉711-2 TEL 053-969-0082

---

地域支援課 中区成子町140-8 TEL 053-453-0580  
FAX 053-452-9218

## 小地域福祉活動事例集 ～あなたの福祉がきっとある～

●編集・発行 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会  
〒432-8035 浜松市中区成子町 140-8  
TEL (053) 453-0580 FAX (053) 452-9218  
<http://www.hamamatsu-syakyou.jp/>



発行日 令和2年12月

